

■FSI 5軸ジャイロスタビライザー

ジャイロスタビライザーといえばウェスカムがやはり有名だが、FSIは米軍向けの製品が多く、小型化にたけている。アフガニスタンで活躍した無人偵察機に装着されていたジャイロスタビライザーはこの会社の製品である。振動抑制性能は16インチのものと変わらない。360°連続回転が可能である。

■日立国際電気製1/2インチCCDカメラ

■フジノン20倍+2倍エクステンダー付きズームレンズ（40倍）

■ソニー オンエアーチューナー

■5インチ液晶オンエアーモニター2面

■5インチ液晶送出モニター1面

■6インチ液晶カメラモニター1面

■GPS位置情報映像エンコーダー**■ジェネバ・オーディオ・インカムシステム**

どの席でも複数のトランシーバーで局や管制機関との通話が可能で各席独立して使用できる。たとえば、レポーターがオンエア・モニターとインカムを使用中にビデオエンジニアがトランシーバーで局と打ち合わせをしながら、パイロットが管制機関と通話できる。

■ビデオスイッチャー

ジャイロカメラ、パイロットCCDカメラ、尾翼CCDカメラ、機上収録ビデオ、機上800MHz受信機の5入力をFPUに切り替えて入力する

■460MHz帯FMトランシーバー**■160MHz帯FMトランシーバー**

■衛星携帯電話（ジェネバ・オーディオ・インカムシステムに組み込み）

■パイロットCCDカメラ、尾翼CCDカメラ（エルモ）および照明

パイロットがレポートすることが可能、尾翼カメラは機体全体を映す

■FM/AM/CDレシーバー（ジェネバ・オーディオインカムシステムに組み込み）

ラジオ放送とのサイマル番組の場合にオンエアーモニターとして使用

■電動アクチュエーター付き全方位マイクロ波アンテナ

■GPSマッピング

■日立国際電気製FPU FR55Z 2B

■1kHzオーディオジェネレーターおよびVUメーター

■VTR、ソニーDSR-50またはDVW-250、松下AJ-D92

■指向性マイクロ波アンテナ（装備可能であるが現在は装備していない）

※そのほかの仕様としては、機体側電源は28Vなのでインバータにより13.5Vに変換しており、13.5Vのサーキットブレーカーパネルをもっている。また管制機関との交信や現場で、ほかの報道ヘリとの衝突防止のための相互連絡波（122.6MHz）での交信のためのAMトランシーバーも2基搭載されており、これもジェネバ・オーディオ・インカムシステムに組み込まれていて各席からモニターと送信を行うことができる

生産工場ではENG機材はなにも付いていない状態でヘリを出荷し、日本に輸入された後に日本の改造業者の手により日本製、もしくは海外製のENG機材が搭載されている。今回このロビンソンR44 News Copterはロビンソン・ヘリコプターの販売代理店であり、ヘリの運航会社でもあるアルファーアビエイションにより輸入されたが、アルファーアビエイションはあらかじめロビンソン・ヘリコプターに一部のENG機材を送付し

て、生産工場での組み上げとテスト・フライトを終了した後、電波干渉等もクリアした状態で機体ごと輸入された。

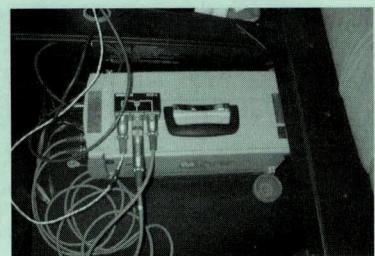
このように生産段階からENG使用を前提に企画・設計されている機体であるので、配線は機体の中にはほぼ埋め込まれている。そのため小型の機体にもかかわらず、スペースの犠牲がほんないということと、通常きわめてやっかいな機体側の無線航法機器のENG機器へ



日立国際電気製1/2インチCCDカメラ内蔵
FSI 5軸ジャイロスタビライザー



左オンエアーモニター。右は送出用モニター



MXTVのFPU